



GOOD DESIGN AWARD 2025

2025 年度グッドデザイン賞
審査委員チュートリアルブック

この度はグッドデザイン賞審査委員をお引き受けくださいますこと誠にありがとうございます。

グッドデザイン賞では「よいデザインに込められた思想やしくみ」などを世の中に伝えていくと同時に、それらデザインから導き出される新たな可能性を発見・伝達することにより、次なる社会への推進役となるべく活動をしております。審査委員の皆様におかれましては、その立役者として審査のみならず当会が企画する様々な場においてお力添えいただきたいと考えております。

本書ではグッドデザイン賞の成り立ちや考え方、実際の審査の仕組みなどについてまとめております。ぜひご一読くださいますようお願い申し上げます。

目 次

1	グッドデザイン賞全体の仕組みとスケジュール	4
2	審査委員のタスクとミッション	4
3	審査の考え方と方法	6
4	審査の詳細	7
	4-1. 基本的なルール	7
	4-2. 一次審査	7
	4-3. 二次審査	9
	4-4. 評価コメント等の執筆	14
	4-5. 受賞祝賀会への参加	17
	4-6. その他	17
5	審査委員会推薦	18

はじめの一步から ひろがるデザイン

デザインは、一体どこから始まるのか？

生み出されたデザインは、誰によって育まれどのように社会に出ていくのか？

今年度のグッドデザイン賞では、それをもっと知りたいと思う。

私がかねてより、プロダクトデザインのような「モノのデザイン」とソーシャルデザインのような「コトのデザイン」を分けて考えることはできず、モノのデザインの裏側には物語＝コトのデザインがあり、コトのデザインのアウトプットにはたくさんのモノのデザインが存在すると言いつけています。そして、過去10年間グッドデザイン賞の審査に携わるなかで、これはあらゆるデザインに対して言えることだと確信しています。このことをあらためて 2025 年度グッドデザイン賞のメッセージに掲げられるのは、二元論的に語られてきたモノとコトのデザインが、今ようやく融合して考えられるようになってきているからだ強く感じています。

本年度のテーマである「はじめの一步から ひろがるデザイン」は、昨年度のフォーカス・イシューの議論から導き出されました。2023 年度は「アウトカムがあるデザイン」、2024 年度は「勇気と有機のあるデザイン」をテーマに掲げ、私たちは今後どちらの方向に進むべきか、そのためにはどのようなプロセスが必要なのかを考え、今あるべきデザインを探してきました。

過去の膨大な受賞デザインから見てきたのは、すべてのデザインの源流ともいえる、創り出す人の想いの重要性と、それを実現まで推し進める力を持ったプロセスの強度でした。さまざまな既存のシステムが飽和状態に達し、これまでの方程式を疑う必要がある今だからこそ、新たな視点を持って、本当に必要とされる美しくしなやかなデザインを生み出すことが、すべての分野で期待されていると感じます。言い方を変えれば「デザインが時代を追いかける時代（マーケティング重視の時代）」から、「“より良いものを創り出すデザインという行為”が社会を牽引する時代」に確実に踏み出したと考えられます。

「はじめの一步から」は、そんな新たな視点を実装する“熱量を持った個”が社会との接点で見出す行為を肯定することを意味し、「ひろがるデザイン」はそれを企業や団体の中で尊重し、それぞれの能力を持ち寄って創り上げる力を意味しています。

応募の際には、最終成果物としてのデザインだけではなく、ぜひその成果物が生まれた経緯やプロセスに含まれるデザインも表現いただけると幸いです。本年度もたくさんのデザインにお会いできることを審査委員一同楽しみにしています。

2025 年度グッドデザイン賞 審査委員長 齋藤 精一

意思を耕す

今年もグッドデザイン賞が始まります。

私は常々、デザインは人と事物、そして周辺環境とのより良い調和を見つける行為であると考えています。そしてその調和の姿は社会背景や技術革新を反映しながら常に変化し続けています。グッドデザイン賞も多様な世相を反映して変容しながら、時代の価値観を映し出し、その瞬間の「Good」を表してきた運動といえるでしょう。

新たな未来を思い描くことは作り手の大きな喜びであるとともに、膨大なエネルギーを必要とする大仕事です。画期的な研究やアイデアを製品・サービスとして具現化し、社会に浸透して活用されるような事物の多くは企業や組織の優れたチームワークによって成されていますが、元をたどると誰か個人の想い、「はじめの一步」から展開されているのだと、あらためて思うのです。声を上げる個人の勇気と強い意思でアイデアが提起され、それを受け止める形で企業や組織が有機的に協力し、社会に実装される大きなうねりへと発展させる。審査にあたっては、そうした個人の意思の尊さを積極的に読み解き、またそれを組織がどのように展開して世の中に表明したのかにも注目したいと思います。

「意思」の視点・視野・視角も重要であり、作者や企業の理念がどのように耕され、応募プロジェクトの発意に至ったのかにも興味があります。応募される皆さんの熱意に応えるため、より深く作り手の「意思」を理解するために、審査方法も試行錯誤を繰り返し、社会とデザインの関係性の変化に合わせて更新を行っています。グッドデザイン賞という運動が時代の価値観を測る「ものさし」になれることを願い、今年も皆様のすばらしいデザインに出会えることを楽しみにしています。

2025年度グッドデザイン賞 審査副委員長 倉本 仁

その一步をチャンスに

過去2年のメッセージでは、「デザインの力」(2023)、「デザインの力の向かう先」(2024)と題し、特にその年度にグッドデザイン賞を通して考えを深めてみたいと思ったことを書きました。そして、実際にデザインの力が社会に与える影響を見つめてきました。

今年度のグッドデザイン賞のテーマは「はじめの一步から ひろがるデザイン」。デザインがはじまる原点から、どのような力を得て広がっていったかを見たいという思いが込められています。昨年度のフォーカス・イシューで、私は「巻き込み力」と「巻き込まれ力」という言葉で、原点を作り出す人、それぞれのスキルでそこから実現に向けて力強く推進していく人の役割について表しました。どのプロジェクトも、この両方の力があつたからこそ実現しているのですが、まさに昨年度の受賞作品にはそのような好事例が多く見受けられました。

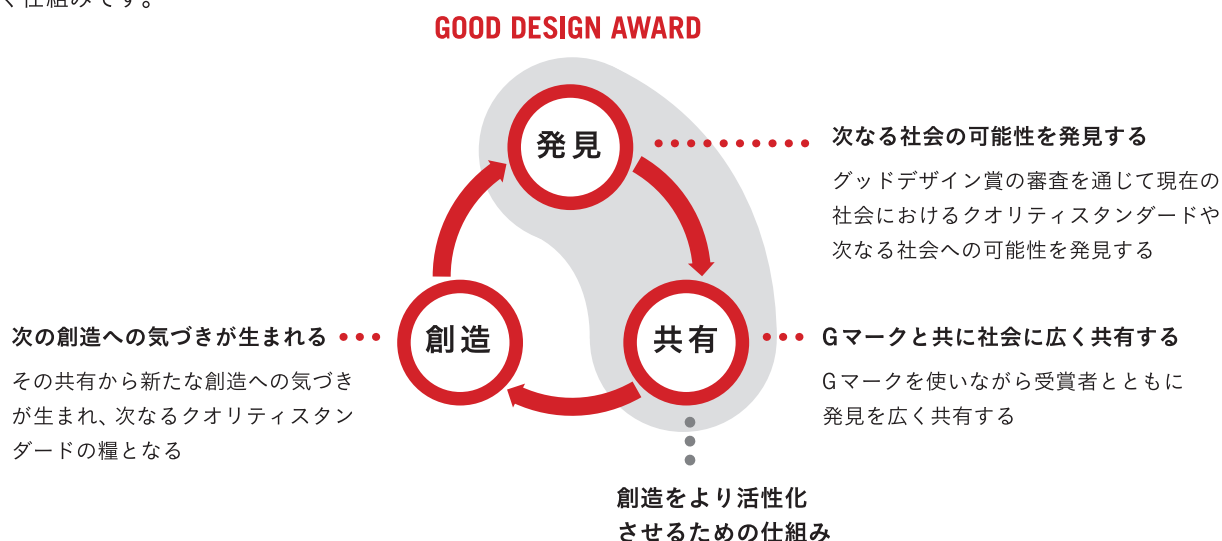
1970年の大阪万博から55年経った今年、2度目の大阪・関西万博が開催されます。前回の万博は「奇跡の万博」と言われており、若い建築家、アーティスト、クリエイターが多く参加し、来たる明るい未来に向けた想いを形にし、多くの来場者がそれに共感しました。この度の万博はその時とは少し様子が異なり、開催前から今の時代における意義が問われています。しかし、日本は開催国として名乗りを挙げ、選ばれ、「はじめの一步」を踏み出しました。その一步を無駄にしないために、私を含め関係者はみな、全力を尽くしています。この一步に意義を与え、チャンスにするかは巻き込まれた私たちにかかっているのだといえます。

グッドデザイン賞は誰かが諦めなかったものだけが並ぶ賞です。そして、そのプロセスの共有は次にアクションを起こそうとしている人たちの背中を押します。ぜひ自らのデザインの過程やストーリーを多くの人と共有し、次なる力を生み出すために、今年度もたくさんの方に応募をしてほしいと考えています。

2025年度グッドデザイン賞 審査副委員長 永山 祐子

1 グッドデザイン賞全体の仕組みとスケジュール

グッドデザイン賞は、様々に展開される事象の中から「よいデザイン」を選び、顕彰することを通じ、社会全体をより豊かなものへと導くことを目的とした総合的なデザインの振興活動です。グッドデザイン賞は単に「よいデザインを選ぶ」のではなく、以下の3つの循環を通して応募者とともに協働することにより、次なる社会の創造へ繋げていく仕組みです。



グッドデザイン賞の種類と位置づけ



2 審査委員のミッション

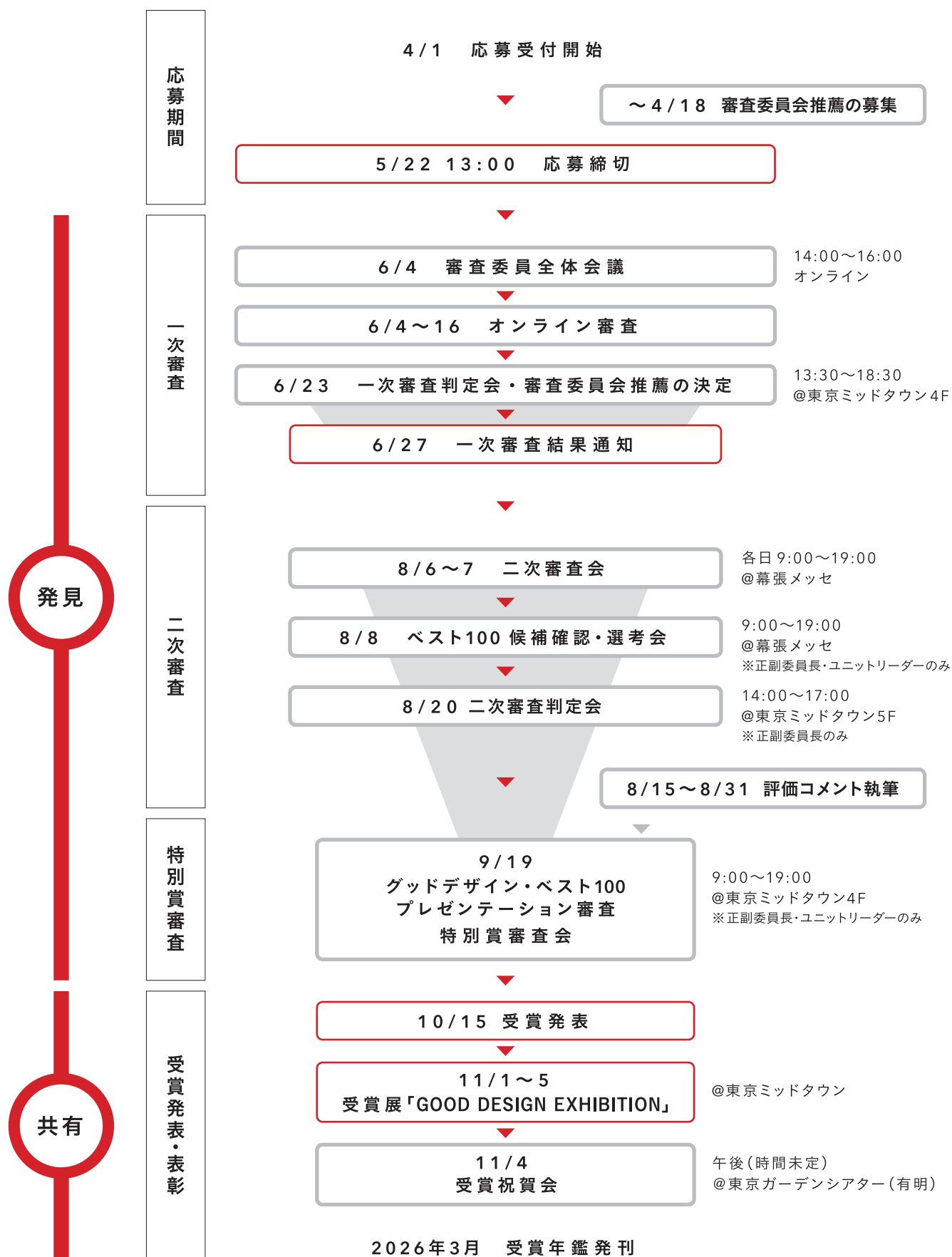
発見 = 審査

- グッドデザイン賞の審査（6～13ページ参照）
- グッドデザイン・ベスト100 および 特別賞の審査（11～13ページ参照）
※リーダーのみ
- 審査委員会推薦候補の推挙（18～20ページ参照）

共有 = 発表・表彰 ほか

- 審査の評価およびアドバイスコメントの執筆（14～17ページ参照）
- 受賞祝賀会への参加（17ページ参照）

おもなスケジュール



3 審査の考え方と方法

【グッドデザイン賞の理念】

グッドデザイン賞では、「優れたデザイン」の志向すべき理念として以下の5つを挙げています。

人間 (HUMANITY)	もの・ことづくりを導く創発力
本質 (HONESTY)	現代社会に対する洞察力
創造 (INNOVATION)	未来を切り開く構想力
魅力 (ESTHETICS)	豊かな生活文化を想起させる想像力
倫理 (ETHICS)	社会・環境をかたちづくる思考力

【審査の基本的な考え方】

1. グッドデザイン賞ではデザインを「人と社会、自然環境との調和を常に考え、目的を見出し、その目的を達成する計画を描き実現化する行為」と考えます。
2. デザインに込められた思想やしくみが「**今後の社会において起点となりうるものであるか?**」を最重要視します。
3. 社会を推進することを目的に「今後の展開への期待や秘められた可能性」も含めて審査します。

【審査の視点】

これらをもとに「人間」「産業」「社会」「時間」という4つの視点から応募対象を観察し、総合的に判断してください。

人間的視点 ○ 使いやすさ・分かりやすさなど、ユーザーに対してしかるべき配慮が行われているか ○ 安全・安心・環境・身体的弱者など、信頼性を確保するための配慮が行われているか ○ ユーザーから共感を得るデザインであるか ○ 魅力を有し、ユーザーの創造性を誘発するデザインであるか
産業的視点 ○ 新技術活用や創意工夫によりたくみに課題を解決しているか ○ 的確な技術・方法・品質で合理的に設計・計画されているか ○ 新産業、新ビジネスの創出に貢献しているか
社会的視点 ○ 新しい作法、ライフスタイルなど、新たな文化の創出に貢献しているか ○ 持続可能な社会の実現に対して貢献しているか ○ 新たな手法、概念、様式など、社会に対して新たな価値を提案しているか
時間的視点 ○ 過去の文脈や蓄積を活かし、新たな価値を提案しているか ○ 中・長期的な観点から持続可能性の高い提案が行われているか ○ 時代に即した改善を継続しているか

【審査のウエイト】

グッドデザイン賞に応募される対象には大きく分けて「十分な実績を積んだ改善型」と「全く新しい新規型」の2種類があります。改善型については「デザインの適切性」を重視し、新規型については「将来の可能性」を重視して審査を行ってください。ただし、新規型においてもデザインとしての品質や魅力を伴わないと判断する場合はグッドデザイン賞にはなりません。

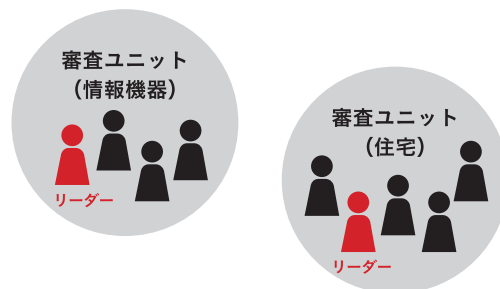


4 審査の詳細

4-1. 基本的なルール

1. 審査ユニット

グッドデザイン賞の審査は、1チーム4～6名からなる「審査ユニット」を組み、そのチーム毎に割り当てられた応募対象を審査します。それぞれの審査ユニットには取りまとめを行う「リーダー」をおきます。リーダーは審査委員長・副委員長が選任します。



2. 自身が関与した対象への審査介入禁止

審査委員長、審査副委員長、審査委員は、審査委員自身がデザインまたはコンサルティングした審査対象を審査することはできません。関連情報の提供を含め、その対象の審査に関わることを一切禁止します。

3. 守秘義務

すべての審査委員は、審査開始以前に主催者に守秘義務に関わる誓約書を提出し、審査対象に関わる機密情報ならびに審査経緯など、審査を通じて知りえた秘密情報を第三者に漏らすことを一切禁止します。

4-2. 一次審査

■ 審査委員全体会議

今年度の全体方針や具体的な審査方法、方針等を確認するための会議です。

お願い事項

1. 審査方針の策定

担当ユニットに応募された対象のリストを確認し、リーダーを中心にディスカッションを行った上で、審査の方針を策定してください。

2. ヒアリング審査実施方針の検討

審査委員会が必要と認める応募対象に関してのみに、説明ないしはプレゼンテーションを求める「ヒアリング審査」を実施します。ユニットとしてヒアリング審査を実施するか否か、実施する応募対象の選び方、実施の方法などについて検討し、一次審査判定会の際に決定できるよう準備をお願いします。

3. 審査委員会推薦対象の検討

審査委員会推薦候補のリストを確認し、一次審査対象を見た上で、さらに推薦候補があるかどうか、検討してください。

■ オンライン審査

一次審査判定会に向けた個人審査です。期日までに「審査サイト」に個別でお伝えするIDとパスワードでログインしていただき、審査をお願いします。

お願い事項

1. 「○×」の評価入力 (必須)

担当ユニットの応募対象情報を確認の上、審査方針および審査の視点と照らし合わせた上で、各応募対象に「○×」の評価を記入してください。

2. コメントの入力 (任意)

「○×」の記入と併せて他の審査委員に対して伝達したいことがある場合は、その内容をコメント欄に記入してください。

■ 一次審査判定会

「二次審査として現品を審査する必要性のあるものを抽出すること」を目的に、一次審査の可否の判定を行う会です。

お願い事項

1. 一次審査の可否判定

リーダーを中心にディスカッションを行った上で、各応募対象の一次審査結果を確定してください。

2. ユニット移動対象の検討

応募対象のリストを確認した上で、「審査ユニットを移動させた方がよい」と判断できるものについては、移動予定先の審査ユニットと相談の上、その方針を決定してください。ただし、応募されたカテゴリーは「重視して欲しい点に関する応募者からの宣言」でもあるため、なるべくこの意志を尊重してください。ユニット移動に関しては以下の基準をもとに行ってください。

A. 応募対象の内容および主旨が担当する領域と明らかに違うもの

B. 当該ユニットでは評価が期待されないが、他のユニットでは評価される可能性があるもの

3. 追加資料を求める対象、または特別な審査を行う対象の決定

ヒアリング審査や現地審査、または動画等による追加資料の確認など、特別な審査を行う必要が認められる応募対象を決定してください。

4. 審査委員会推薦対象の決定

審査委員会推薦候補のリストを確認し、リーダーを中心にディスカッションを行った上で、ユニットとして審査委員会推薦に選定する対象を4件以内で確定してください。

5. ヒアリング審査に向けた事前調整

ヒアリング審査を実施する場合は、日程と確認ポイント等について調整を行います。

一次審査の判断基準

グッドデザイン賞の審査は「応募対象の現品を確認して判断する」ことを原則としていますので、一次審査は「明らかにグッドデザイン賞の水準ではないと確実に判断されるもの」のみを不通過としてください。判断基準は以下です。

【不通過判断基準】

1. グッドデザイン賞の理念から逸脱している

社会的な道義や倫理に反するものや社会的な誠実さに欠けるものなどについては不通過としてください。

2. 応募ルールに抵触する恐れがある

「2026年3月末までにユーザーが購入・利用できる」という応募条件等を明らかに満たし得ないと推測できるものは不通過としてください。

3. 価値や品質が明らかに低いと推測されるもの

品質や価値の程度が明らかに低いと推測されるものは不通過としてください。

■ 事務局による判定結果の確認

一次審査判定会の結果について、事務局がその妥当性を確認します。

審議事項が生じた場合には、各審査ユニットで再度協議の上、審査結果を確定します。

4-3. 二次審査

■ 二次審査会

審査会場に設置された応募対象の現品（搬入が困難な対象は代替物）を確認し、グッドデザイン賞の可否判定を行う会です。

お願い事項

1. 二次審査の可否判定

二次審査を通過した対象は、審査確定会を経てグッドデザイン賞受賞内定となります。応募対象現品確認やヒアリング審査（後述）等を踏まえ、各応募対象の二次審査結果を確定してください。

2. ベスト100 候補の選定

グッドデザイン賞では「未来を示唆するデザイン」として評価の高い受賞対象100件を「グッドデザイン・ベスト100」として公表し、この中から特別賞を選出します。二次審査会の結果を踏まえ、グッドデザイン・ベスト100候補の選出を行ってください。

3. アドバイスコメントを行う対象の抽出

応募者に対して今後の「気づき」を提供するため、その可否にかかわらず応募者に対してアドバイスコメントを伝達しています。アドバイスコメントを行う対象の抽出を行ってください。

4. 評価コメント・アドバイスコメントの執筆担当決め

グッドデザイン賞を受賞したすべての対象について「どこがよいデザインであるか」を審査委員の評価コメントとして公開します。上述のアドバイスコメントと併せて執筆する担当の割り振りを行ってください。

5. ベスト100 候補の確認および選定（リーダーのみ）

審査会3日目に審査委員長・副委員長、各審査ユニットリーダーによってベスト100候補の確認を行います。各リーダーは自身のユニットのベスト100候補について、選定理由を説明してください。その後、合議でベスト100を選定します。

審査方法

二次審査会では様々な特性を持つ応募対象の現品が設置されるため、審査ユニットによって適切な審査方法は異なります。リーダーを中心に審査方法を協議し、適切な方法で審査を行ってください。なお、審査においては必ず「合議によって可否の決定」を行ってください。以下に通常想定される審査方法を示します。

1. 応募対象の確認および個別投票

各審査委員は個別に応募対象現品またはその代替物と応募シートを確認し、優れたデザインと認める対象に投票を行います。

2. ヒアリング審査に向けた事前調整

ヒアリング審査を実施する場合は、確認・質疑するポイント等について調整を行います。

3. ヒアリング審査の実施

指定の時間に応募者からの説明・プレゼンを受け、質疑応答を行い、応募対象への理解をさらに深めます。

4. 合議による可否の決定

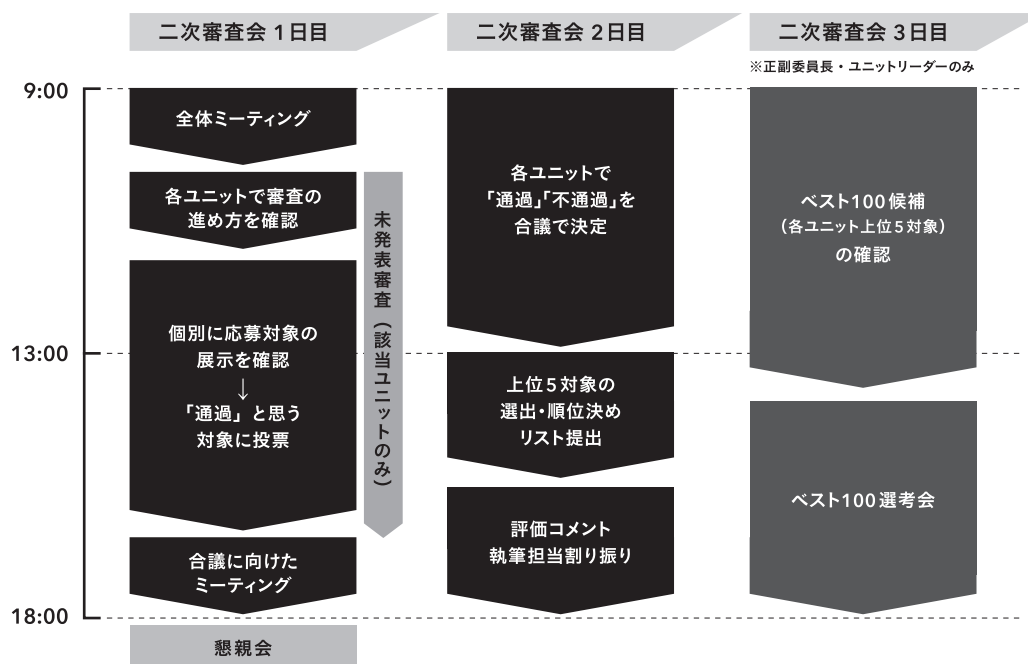
個別投票結果およびヒアリング審査結果を踏まえ、リーダーを中心にディスカッションを行った上で可否を決定します。

5. ベスト100 候補の選定

二次審査会の結果を踏まえ、リーダーを中心にディスカッションを行った上でグッドデザイン・ベスト100候補の選出を行います。



二次審査の流れ



特別な審査

二次審査会では応募対象の特性に合わせて様々な審査を行います。以下に示したものの以外であっても、必要な場合は自由に審査を設定できます。

1. ヒアリング審査

応募された対象についてより深く理解するため、審査委員会が必要とする対象を指定して、応募者に説明またはプレゼンテーションを求める「ヒアリング審査」を実施することができます。ヒアリング審査を実施する場合は、二次審査期間内に応募者に通知します。応募者の希望や申請に基づく実施はありません。ヒアリングは原則として、オンライン (zoom) で実施します。

2. 未発表審査

グッドデザイン賞では二次審査会の段階において開発途中 (発売前等) の製品であっても応募することができます。応募者の希望があった場合、情報が漏えいしないように機密性の高い別室で個別に審査を行います。

3. 現地審査

現品の展示が困難な対象のうち、各審査ユニットの合議において「現地に行き、実際に確認をした方がよい」と判断されるものがあります。この場合、各審査ユニットより現地審査を応募者に要請し、実物を確認する審査を実施することができます。現地審査を実施する場合は二次審査期間内に応募者と調整を行った上で、実施します。

ベスト100候補の選定および確認方法

1. ベスト100候補の提出

ベスト100候補について、以下のルールに基づいて順位づけを行った上で「ベスト100候補連絡票」に必要事項を記載し、提出を行います。ユニットの5位までは、原則として必ずベスト100に入るものとし、1位は原則として金賞とします。金賞にふさわしい理由、どこを特に優れたデザインとして評価したのかを、ユニット内で明確にしてください。

(記入方法)

リスト上位から「ベスト100に相応しいと思われる順」に「審査番号・応募対象名」を記載します。各審査ユニットから選出できるベスト100候補は5件を上限とします。必ず1位～5位の順位をつけてください。5件以上の候補をあげたい場合は、3件まで、予備としてリストに記載することができます。

2. ベスト100候補の確認

二次審査会3日目に、審査委員長および審査副委員長、各審査ユニットのリーダーは、二次審査会場内に展示されているベスト100候補の現物確認を行います。

■ ベスト100選考会 **リーダーのみ**

二次審査会において各審査ユニットで提出した「ベスト100候補」をもとに、グッドデザイン・ベスト100を選定する会です。

お願い事項

1. グッドデザイン・ベスト100の選定

参加者全員のディスカッション、投票等により「グッドデザイン・ベスト100」を決定します。

ベスト100の選出方法

グッドデザイン・ベスト100は以下の手順によって選出します。

1. 各審査ユニットにおける順位づけの確認・調整

事務局はベスト100選考会が開始される前までに、選考会会場の壁面に全審査ユニットのベスト100候補について、順位づけを順守した上で掲示を行います。各審査ユニットのリーダーは壁面に掲示されたベスト100候補を一覧し、全体のバランスを確認します。

2. 各審査ユニットの上位5件の確認およびベスト100の内定

すべての現物確認の終了後、全審査ユニットから提示された上位5件についてベスト100内定の確認を行います。このベスト100内定について異議のある場合には、挙手により申し立てを行い、合議を行います。異議の生じた対象については、合議後に挙手により採決を行います。異議が同数であった場合は、審査委員長の権限により決定します。特に異議がない場合、これら上位5件はそのままベスト100として内定します。ただし、最終的な決定手続きは「取り下げ・失格」などの事由が生じた場合に備え、以降の補欠候補選考も踏まえて行われます。

3. 各審査ユニット・トップ（グッドデザイン金賞）の内定

各審査ユニットの上位5件のうち、1位にランクされた応募対象は「審査ユニット・トップ」として、原則としてグッドデザイン金賞に内定します。2025年度は審査ユニットが20あるため、合計20件のグッドデザイン金賞が選出される見込みです。

4. 補欠候補の選出

各審査ユニットは、上位5件のほかに「補欠候補」を3件までリストアップできます。その中から「ベスト100補欠候補」を3件選出し、ベスト100として内定している100件に何らかの事情（取り下げ・失格など）が生じた場合、補欠候補を順次繰り上げてベスト100入りとします。

なんらかの事情で内定取り消しとなる応募対象が出た場合、補欠候補が繰り上げの対象となるため、最終的に各審査ユニットから5件がベスト100に選ばれるとは限りません。

なお、ベスト100は合計100件、各審査ユニット・トップ（グッドデザイン金賞）合計20件が選出されますが、この段階ではいずれも「内定」ととどまり、特別審査会を経て正式に決定します。

■ 事務局による判定結果の確認

二次審査判定会の結果について、事務局がその妥当性を確認します。

審議事項が生じた場合には、各審査ユニットで再度協議を行います。

■ 二次審査判定会 正副委員長のみ

二次審査会において各審査ユニットで出した審査結果について最終確認し結果を確定します。

お
願
い
事
項

二次審査の合否確認

各審査ユニットで出した合否結果を改めて見直し、その合否に間違いがないかを確認してください。異議がある場合は、当該審査ユニット・リーダーと合議の上、合否を決定してください。これと同じ要領で事務局からの審議事項についても最終的な判断を行ってください。

■ 特別賞審査会

第一部：グッドデザイン・ベスト100プレゼンテーション審査 リーダーのみ

グッドデザイン・ベスト100に選ばれた受賞者によるプレゼンテーションを聞き、特別賞選考のために受賞対象についての理解を深めます。この審査は非公開で行われます。

お
願
い
事
項

1. グッドデザイン・ベスト100プレゼンテーションの聴講

ご自身のユニットおよび関連のユニットのベスト100受賞者によるプレゼンテーションを概ね25件程度聞き、質疑応答をしていただきます。

2. 他のユニット・リーダーとの共有

ご自身が聞いたプレゼンテーションの内容を、その場に不在だった他のユニット・リーダーの方々と共有します。

第二部：特別賞選考会 リーダーのみ

グッドデザイン・ベスト100に選定された対象の中から、さらに特筆すべき優れたデザインを特別賞として選定する会です。

お
願
い
事
項

1. グッドデザイン金賞の選出

ベスト100選考会で内定した「グッドデザイン金賞」20件を確認し、選出します。

2. 経済産業大臣賞候補の選出

グッドデザイン金賞の中から、3件以内の経済産業大臣賞候補を選出します。

3. グッドデザイン大賞の選出

グッドデザイン金賞の中から、1件のグッドデザイン大賞を選出します。

4. グッドフォーカス賞の選出

投票および合議により金賞以外のグッドデザイン・ベスト100の中からグッドフォーカス賞を選出します。

金
賞
等
の
選
出
方
法

グッドデザイン金賞・グッドフォーカス各賞・グッドデザイン大賞は以下の手順によって選出します。

1. グッドデザイン金賞の決定

ベスト100選考会で内定した「グッドデザイン金賞」20件を対象に以下の基準にもとづき確認を行います。異議がある場合は、挙手により申し立てを行い、合議を行います。異議の生じた対象については、合議後に挙手により採決を行います。この際、変更がある場合には、各ユニットのトップが入れ替わることになります。各ユニットのトップは必ずグッドデザイン金賞となります。

（選出基準）

概念や技術、品質等において、先進性と社会性を兼ね備えた、現在における極めて優れたデザイン（Best of Best）と認められるもの

2. 経済産業大臣賞候補の選出

金賞の受賞対象の中から、3件以内で経済産業大臣賞の候補を選出します。選出にあたっては、以下の基準にもとづき投票を行います。得票数の上位3件以内を経済産業大臣賞候補として内定します。

(選出基準)

我が国の経済の発展に寄与すると特に認めるもの

3. グッドデザイン大賞の選出

「グッドデザイン金賞」に確定した20件から、グッドデザイン大賞1件を選出します。大賞選出にあたっては以下の基準にもとづき投票を行います。最多得票を得たものをグッドデザイン大賞として決定します。同率になった場合は合議の上、決選投票を行い決定します。

(選出基準)

その年を象徴する革新性や波及力が格段に高いデザインであり、今日の社会が求める最も秀でたデザインであると認められるもの

4. グッドフォーカス賞候補の選出と投票

グッドデザイン金賞内定候補を除くグッドデザイン・ベスト100から各グッドフォーカス賞について以下の基準にもとづき投票を行います。

(各特別賞の選出基準)

グッドフォーカス賞[新ビジネスデザイン]

新たなビジネスモデルや新産業の創出、イノベーションの促進に寄与する優れたデザインとして特に認めるもの

グッドフォーカス賞[技術・伝承デザイン]

中小企業の高度な技術や技能によって実現された、特に優れたデザインと認めるもの

グッドフォーカス賞[地域社会デザイン]

地域社会の持続的発展や経済の活性化に特に寄与するデザインと認めるもの

グッドフォーカス賞[防災・復興デザイン]

自然災害への防備または自然災害による被害からの復興に対して寄与する優れたデザインとして特に認めるもの

なお、上記以外の賞を新設する場合があります。

5. グッドフォーカス賞の内定

投票結果の「上位3件」をボーダーラインとし、審査委員長・副委員長の了承をもってグッドフォーカス賞を決定します。

4-4. 評価コメント等の執筆

審査委員の皆様からいただくコメントは、応募者・受賞者にとって大いに励みになっています。また、デザインとしてどこが優れていたのか？その価値や可能性を社会に伝え共有していくための重要な情報となります。二次審査会時に各審査ユニットで割り振られた担当分に対してコメントの執筆をお願いします。

お願い
事項

1. 評価コメントの執筆

1 受賞対象につき 200 字程度の評価コメントを執筆してください。評価コメントの多くは受賞した企業のプレスリリースやその他広報にも使用され、またグッドデザイン賞のウェブサイトに掲載され広く公開されます。

2. アドバイスコメントの執筆（任意）

1 対象につき 200 字程度のアドバイスコメントを執筆してください。コメントは応募者にのみ伝達されます。

■ 評価コメント 執筆ガイド

以下のポイントをふまえながら評価コメントをまとめていただくことで、読み手にわかりやすく、デザインの本質的な魅力や意義が十分に伝わる内容になるかと存じます。審査委員の皆様のご知見やご経験を生かした、より充実したコメントをお寄せいただければ幸いです。

● 評価コメントの意義

- ・具体的に「この対象の何が・どう良かったのか」をわかりやすく伝えることで、評価されたポイントをより深く知ることができます。
- ・第三者による評価があることで、客観的なその対象の「良さ」を伝えることができます。
- ・個人の感想ではなく、あくまでも「審査委員会」としてのお立場で、受賞デザインの良さを広く社会に共有する機会となります。

● 評価コメントの目的

1. 気づきを共有できる 「なるほど、そんな見方があったのか！」
他の人の視点で見ると、自分では気づかなかった良さが見えてくる
2. 次につながるヒントになる 「ここが評価されたんだ、次はこうしてみよう」
良かったポイントがわかれば、次の目標も見えてくる
3. 価値を"見える化"できる 「なんとなく良い」から「ここが具体的に良い」に変わる
曖昧な印象を、具体的な言葉にできる

● 評価コメントご執筆の際にご参考いただきたい4つの視点

・「今はどんな状況？」を説明する

受賞対象が生まれた背景や社会的・産業的な文脈を簡潔に示すことで、デザインが取り組んでいるテーマや課題が明確になります。

・「どんな問題があるのか？」を示す

その背景の中で、どのような課題を解決しようとしているのかを伝えます。課題の所在がはっきりすることで、デザインの目的や意義がより際立ちます。

・「何が良かったの？」を具体的に書く

デザインの優れたポイントや評価すべき特徴を、具体例を挙げながら丁寧に説明します。

独創性や使いやすさ、問題解決への貢献など、評価の裏付けとなる要素を挙げると説得力が増します。

・「これからどうなりそう？」を伝える

このデザインがもたらす可能性や、今後の社会や利用者にとってどのような良い影響が期待されるかを示します。将来性や波及効果などの展望を述べることで、デザインの価値が一層深く理解されます。

● 避けていただきたいポイント

・ 主観的な感想だけで終わらせない

「優れている」「素晴らしい」などの感覚的な表現を用いる場合でも、なぜそう感じたのか、具体的な根拠や評価の観点を示すことで、コメントに説得力が生まれます。

・ 応募資料に書いてある情報の繰り返して終わる

評価コメントは、応募対象の基本情報とともに掲示されますので、応募対象に関する過度な説明は不要です。ご自身の視点や評価軸を付け加え、オリジナルの見解を示すことで、コメントの価値が高まります。

・ 必要以上に否定的な部分を強調する

改善点を述べる際は、今後の伸びしろや期待感につながる前向きな意図が伝わるよう配慮してください。

● 参考例：2024年度グッドデザイン金賞受賞

「介護用洗身用具 スイトルボディ SWB-1000JP」の評価コメント

- ①→ 本製品は、ベッドに寝たままシャワーを浴びることができ、
介護における洗体の問題に画期的な解決を提供している点が高く評価された。
- ②→ 介護者不足や老老介護が社会問題となるなか、
- ③→ 介護者一人で簡単に洗体が行えるため、
施設だけでなく自宅においても暮らしの質を大幅に上げることが期待できる。
- ④→ 介護施設での複数台の使用を考慮し、
重ね置きが出来たり、ホースと一緒に収納できたりと、
現場での知見が、誠実に丁寧にデザインに落とし込まれている。

解説：①において具体的に解決された課題の言及、②においては背景の説明、③では今後の可能性や影響についての展望が示され、④ではデザインの優れたポイントを示しています。

■ ユニット総評 執筆ガイド **リーダーのみ**

ユニット総評とは、その年の審査を通じて見えてきた、そのユニットにおける特有の傾向や、当該ユニット独自に見出された評価のポイント、気付きなどを総合的にまとめていただく文章です。約800文字を目安に、ユニット審査において審査委員の皆様が得た知見や着眼点を共有いただくことで、審査結果の背景が深く理解されることを目的としています。

● ユニット総評の目的

・ ユニットのトレンドを可視化する

その年の応募対象を通じて浮かび上がったテーマや社会的な課題を、ユニットごとにまとめることで、より大きな視点からデザインの動向をとらえることができます。

・ 審査の視点を共有する

ユニット特有の審査観点や、評価の際に重視した要素を言語化することで、今後の応募者や他の審査委員、さらには一般の方々が「デザインを見る視点」を学ぶきっかけとなります。

・ 次のステップへのヒントを提供する

審査を通じて見えてきた「今後の可能性」や「現状の課題」を示すことで、社会や産業界が次に取り組むべき方向性、あるいはさらなる実践の可能性を提示できます。

● ユニット総評 執筆のポイント

1. 全体像を示す

その年の応募対象の傾向や共通する要素、特徴的だった事例などを概観してください。特に、ユニットならではの分野特性がある場合は、それがどのように表れていたかを述べていただくと効果的です。

2. 評価の視点・ポイントを具体化する

そのユニットが重視した視点や評価項目を、いくつかのキーワードや事例とあわせて示すことで、「どんな理由で高評価に繋がったのか」を理解しやすくなります。逆に、どのようなものは評価できなかったのかも、具体名は出せませんが、キーワードや事例として挙げていただけると、受賞に至らなかった応募者の参考になります。

3. 発見や気付きを共有する

審査過程で得られた新たな発見、驚き、あるいは課題などがあれば、その具体的なエピソードやデザインの特徴を交えてご紹介します。

4. 今後への示唆や期待を示す

ユニット全体として感じた「今後の方向性」や「社会的な広がり」「さらなる発展への期待」など、前向きな視点を添えていただくと、より発展的なメッセージとなります。

● 参考例：2024年度ユニット02 パーソナルケア用品のユニット総評

ユニット2はパーソナルケア用品のユニットとしてウェルネス、衛生、美容、育児、福祉、介護用品などが主な審査対象である。本年も多様なエントリーがあったが、審査会で共通して議論となったのは「ケア」そのものの質や、その射程の広さであったように思う。

ケアとは、個人主義的なものではなく、誰かを思いやり、共感し、支援するという他者との関係性や、その先にある社会的責任、倫理的な関わり方を含む包括的な概念である。今年、特に評価を集めたものも、見つめる視線の先に、個人と社会の双方に潤いをもたらす、より人間的で持続可能な社会を築くことを見据えるものであった。

介護用洗身用具スイトルボディ (24G020096) はその好例である。高齢者介護で負担の大きい入浴に着目し、ベッドで洗体を可能にするという現場に寄り添った新しい選択肢を提案している。毎日を

清潔に過ごすという、人として当たり前の欲求を、多くの人が当たり前に満たせる意義は大きい。社会問題となっている介護従事者の不足や老老介護への負担も軽減し、高齢化社会における生活の質の向上に寄与することが期待される。無印良品のスキンケア敏感肌用シリーズのリニューアル(24G020060)では、処方を天然素材へアップデートするだけでなく、自社でボトルの回収、再生、製造を一貫して行い、ライフサイクル全体をリデザインしている。使用者の美しさと、環境全体の美しさを同時にケアする視点は、人間と自然とは本来一体であることを思い出させてくれる。また、「ふるさと元気プロジェクト」(24G020105)や「明日わたしは柿の木にのぼる」(24G020104)といった地方の天然素材を活用した取り組みは、地域資源を再発見し、その実りを循環させることで、地域経済の活性化に貢献するものだ。

これらのプロジェクトは、デザインを通じて個人と社会の間に新たな関係性を築き、相互のケアを促進する意義深い例となっている。個人の勇気や思いやりが社会を支え、同時に社会が個人を支える。個人と社会が有機的に、相互依存的にケアしあう関係性に、持続可能な未来の姿が浮かび上がってくる。デザインがそこに大きく貢献できることを、本年度の受賞作は示してくれている。

4-5. 受賞祝賀会への参加

グッドデザイン賞受賞者の受賞をお祝いする会です。

お
願
い
事
項

1. 受賞祝賀会への出席

受賞者に対して祝福の言葉やアドバイス、コメントなどをお話しいただき、受賞者に対して新たな「気づき」を提供できるよう、ご協力をお願いいたします。また、受賞者との積極的な交流もお願いいたします。

4-6. その他

■ その他 特記事項

1. 審査委員長判断による方法の変更について

上述したプロセスおよび方法について何らかの問題が生じた場合、または他の最適な方法が提案された場合など、現場の状況を鑑みた上で審査委員長の判断により変更が行われる場合があります。

5 審査委員会推薦

審査委員会推薦制度は、よいデザインを顕彰するために審査委員会の見識をもって応募を呼びかける制度として、2019年度より実施しています。これは、審査委員が主体的に「グッドデザイン賞の応募を通してさらなる評価や機会が期待されるのではないか」と考える優れたデザインを見いだし、応募を促す仕組みです。

ただし、応募候補の提案から正式な推薦対象となるまでに、下記のプロセスを経る必要があります。審査委員の皆様には、各段階においてご協力いただきたいことがありますので、ご確認ください。

【審査委員会推薦のルール】

1. 推薦可能な対象

グッドデザイン・ベスト100に選定されうる優れたデザインであると審査委員会がその見識をもって推薦できるもの。ただし、審査委員自身がデザイン・コンサルティング等関与した対象を自薦することはできません。

2. 推薦された対象の取り扱い

「一次審査判定会議」において、推薦された対象を審査する審査ユニット内で検討し、当該審査ユニットで審査委員会推薦に値すると判断される対象を4件以内で選定します。審査委員長・審査副委員長は、各ユニットから挙げられた候補を確認し、「審査委員会推薦」対象を確定します。

3. 推薦により応募された対象の審査

審査委員会推薦となった対象について、事務局より応募勧誘を実施します。推薦により応募された対象は一次審査を通過したものとみなし、二次審査会から参加します。

なお、推薦により応募された対象であっても、二次審査は通常の実応募対象と同等に審査します。

4. 費用

推薦により応募された対象は、二次審査料および受賞パッケージ料を免除します。

（展示の特殊なオプションを除く）

【審査委員会推薦のプロセス】

① 通常応募フェーズでの「応募候補の提案」

期間の目安：4月中旬頃まで

お
願
い
事
項

「グッドデザイン賞に応募されると良いのではないか」と思われる対象を、専用登録フォームを通じてご提案ください。

※この段階で挙げた候補は、あくまで通常応募を勧誘するためのものであり、まだ「審査委員会推薦対象」にはなりません。「通常応募」されなかった対象は、そのまま「審査委員会推薦候補」リストに掲載されます。

事
務
局
の
対
応

提案いただいた候補先へ、事務局より「通常応募」を案内します。

通常応募の締切までに実際に応募があった場合、その応募は通常応募対象として取り扱われます。

② 一次審査期間における「審査委員会推薦候補」のリストアップ

時期の目安：一次審査判定会議の前（概ね5月～6月頃）

お願い
事項

「グッドデザイン・ベスト100に選出されうる水準」であると考えられるデザインを専用登録フォームを通じてご提案ください。

※未応募のものを挙げてください。すでに「通常応募」された対象は、審査委員会推薦対象とはなりません。

※この段階では、まだ「審査委員会推薦対象」にはなりません。

事務局
の対応

各審査委員から寄せられた候補を審査ユニットごとに整理し、一次審査判定会議に備えてまとめます。

③ 各審査ユニットにおける協議・推薦候補の最終選定

時期の目安：一次審査判定会議当日

お願い
事項

1. 一次審査判定会議において、審査ユニットごとに「審査委員会推薦候補」としてリストアップされた対象を検討し、「審査委員会推薦対象」にふさわしいかどうかを協議します。

2. 協議の結果、各審査ユニットは最大4件を「審査委員会推薦対象」として選定します。

事務局
の対応

選定された「審査委員会推薦対象」に対し、事務局から公式に「審査委員会推薦として応募しませんか」と勧誘します。

この勧誘を受け、応募者が実際に応募手続きを行った場合に、はじめて「審査委員会推薦対象」として正式に取り扱われます。

応募者へのご連絡について（審査委員の皆様へのお願い）

審査委員会推薦では、公正かつ円滑に進めるために、審査委員から応募者へ直接連絡することはご遠慮いただいております。以下の点にご協力をお願いいたします。

1. 「推薦に挙げた」等の直接のご連絡はお控えください

個別に「あなたを推薦候補に挙げました」「事務局からの連絡を待ってください」などを伝える行為は、誤解やトラブルの原因となる場合があります。

連絡は原則として事務局が行いますので、審査委員の皆様は事務局への情報提供にとどめていただけますようお願いいたします。

2. 特別な事情や疑問点がある場合は事務局へ

応募者から直接照会を受けた場合や、ご不明点・特別な事情がある場合は、まず事務局にご相談ください。

上記のプロセスを通じて、優れたデザインをより多く発掘し、公平な審査と円滑な推薦手続きに努めてまいります。

審査委員会推薦スケジュール

